



かたくい



令和2年度
第10号

2020. 6.12

学校教育目標

夢ふくらませ 心かがやく

子どもたちの頑張りが光る研究授業会（4年・6年社会科）でした。

今年度最初の授業研究会（社会科）が、6月9日に行われました。授業を行ったのは、4年生と6年生。どちらの学年も先生方に参観されていることを感じさせないほど授業に集中しており、力を十分に発揮することができました。



【6年「縄文のむらから古墳のくにへ」】

今年から、歴史の授業は、生活と政治の学習を終えたあとに学ぶことになりました。

今回の授業の前に、子どもたちは秋田県の縄文時代の遺跡について、大仙市の埋蔵文化財センターの所員の方々から学びました。その際、西明寺小付近に縄文の遺跡があったことにびっくり。古代の歴史を身近に感じるこ

ととなりました。研究授業では、縄文のむらから古墳のくにへと歴史が大きく変化していくことを踏まえ、「なぜ?」「どうして?」と疑問をふくらませていました。

時代が変化していくには、何らかの原因があったであろうという想定のもと、このあと調べていくための問題をはっきりさせていました。

様々な資料をもとに考える様子はさすが6年生。発言には、目のつけどころのよさや説得力が感じられました。



【4年「水はどこから」】

身近な暮らしについて学習している4年生では、「住みよいくらしをつくる」学習で、水（飲料水）の安定供給を取り上げた学習に取り組んでいます。

今回は、学校に供給されている水は、どこから来ているのだろうという疑問に焦点をあて、実生活の中で経験していることを生かしながら、これから調べていく内容をはっきりさせることができました。

身近な事象だけに知っているつもりでも、改めて先生から質問されると……。子どもたちのこれまでの知識がどんどんびっくり返されていきます。次から次へと疑問が生まれ困っている子、その疑問に答えようとする子、授業がどんどん白熱し、盛り上がっていました。

疑問に思ったことを積極的に調べ、解決させようとする姿勢は、4年生のすばらしいところです。調べていく中での気づきや思考の深まりにより、どんどん自信をつけて、社会科が好きになりそうな子どもたちです。

